



Title	Gallia 58号 報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2019, 58, p. 118-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/72874
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

報 告

講義題目 (2018年度)

- 和田 章男 教授 (講) プルーストにおける音楽受容と小説創造 (共通)
 (講) 名作でたどるフランス文学の歴史 (山上教授と共同、学部)
 (演) ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』を読む
 (学部・修士)
 (演) プルースト『囚われの女』、『消え去ったアルベルチヌ』
 研究 (大学院)
- 山上 浩嗣 教授 (演) パスカル『パンセ』を読む (学部・修士)
 (講) デイドロ『サロン』を読む (共通)
 (演) モンテーニュ『エッセー』を読む (大学院)
- Éric Avocat 特任准教授 (演) L'histoire de France, en bande dessinée et en films
 (学部・修士)
 (演) Exercices pratiques de langue française (学部・修士)
 (講) Initiation à la lecture des textes littéraires et à l'écriture
 académique (大学院)
 (演) Les moralistes française, expression littéraire de la culture
 classique (17^e-18^e siècles) (大学院)
- 林 千宏 准教授 (講) フランス・ルネサンス詩研究—恋愛抒情詩を中心に—
 (1学期) (共通)
- 岩根 久 教授 (講) フランス・ルネサンスにおける詩の様態—プレイアード
 派を中心に— (2学期) (共通)

卒業論文 (2017年度)

- 『雄鶏とアルルカン』におけるジャン・コクトーの美学—公衆と音楽—
 上 妻 志 的
- 『赤と黒』の女性たち—レナール夫人とマチルド—
 馮 雪 穎
- モーパッサン『ベラミ』における「怒り」
 平 島 沙 紀 子

修士論文 (2017 年度)

François Villon et les écrivains de la bohème : Gautier, Murger, Carco

竹 鼻 智 子

La climatothérapie dans *À la recherche du temps perdu*

宮 田 駿 介

日本フランス語フランス文学会研究発表

2018 年 10 月 27 日 (土)・10 月 28 日 (日) (全国秋季大会、於新潟大学)

- ・見えない網—マルロー『王道』における冒険と未帰順部族

井 上 俊 博

- ・見えないものを見る：モーパッサンの幻想小説

(ワークショップ企画「見えるもの、見えないもの—19 世紀幻想文学再考—」)

足 立 和 彦

- ・書物の問いを再び開くために：マラルメとポンジュ

(ワークショップ企画「マラルメと 20 世紀の詩人たち—没後 120 年目に振り返る—」)

太 田 晋 介

大阪大学フランス語フランス文学会研究発表

第 83 回研究会 2018 年 9 月 29 日 (土) (於大阪大学文学部棟 2 階大会議室)

- ・『パンセ』原稿と写本および校訂について：研究の現状

山 上 浩 嗣

司会：武 田 裕 紀

- ・時況節の談話的機能と時制解釈—quand 節、comme 節に現れる半過去を中心に

高 橋 克 欣

司会：井 元 秀 剛

第 84 回研究会 2019 年 3 月 2 日 (土) (於大阪大学文学部棟中庭会議室)

- ・ボードレールの散文詩『気前の良い賭博師』における抒情性

廣 田 大 地

司会：寺 本 成 彦

- ・ボードレール研究の可能性—テキストから世界へ

北 村 卓

司会：岩 根 久